

Mac 版 VMware View Client の使用

2012 年 9 月
Mac 版 View Client

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-000668-04

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2010–2012 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

1	Mac 版 VMware View Client の使用	5
	セットアップとインストール	5
	Mac クライアントのシステム要件	6
	サポートされている View デスクトップのオペレーティング システム	6
	View Client 向けの View 接続サーバの準備	7
	Mac OS X への View Client のインストール	7
	View Portal を使用して View Client をインストールする	8
	Dock への VMware View Client の追加	8
	エンドユーザーの証明書確認の構成	8
	URI を使用して View Client を設定	9
	vmware-view URI を作成するための構文	9
	vmware-view URI の例	11
	サーバ接続とデスクトップの管理	12
	初回の View デスクトップへのログイン	13
	View Client の証明書チェック モード	14
	デスクトップの切り替え	15
	デスクトップからのログオフまたは切断	15
	ホーム画面からの View サーバショートカットの削除	16
	デスクトップのロールバック	16
	Mac での Microsoft Windows デスクトップの使用	17
	機能サポート一覧	17
	国際化	17
	テキストとイメージのコピー アンド ペースト	17
	PCoIP クライアントサイド イメージ キャッシュ	18
	View Client のトラブルシューティング	18
	デスクトップのリセット	18
	View Client のアンインストール	19
	インデックス	21

Mac 版 VMware View Client の使用

このガイド『Mac 版 VMware View Client の使用』では、データセンター内の View デスクトップに接続する場合に VMware View™ ソフトウェアを Mac にインストールして使用する方法について説明します。

このドキュメントには、Mac 版 View Client をインストールおよび使用するためのシステム要件と手順が記載されています。

これらの情報は、Mac クライアント デバイスを含む VMware View を設定する必要がある管理者を対象としています。これらの情報は、仮想マシン テクノロジーおよびデータ センターの運用に精通している経験豊富なシステム管理者向けに記述されています。

■ セットアップとインストール (P. 5)

Mac クライアント向けに View の展開をセットアップするには、特定の View 接続サーバ構成を使用し、View server と Mac クライアントのシステム要件に適合させ、VMware の Web サイトから Mac 用 View Client をダウンロードしてインストールします。

■ URI を使用して View Client を設定 (P. 9)

uniform resource identifiers (URI) を使用して、View Client を起動するためにエンド ユーザーがクリックするリンク付きの Web ページまたは電子メールを作成し、View 接続サーバに接続し、特定の設定オプションで固有のデスクトップを起動できます。

■ サーバ接続とデスクトップの管理 (P. 12)

View Client を使用して View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続し、View デスクトップにログインするか View デスクトップからログオフします。トラブルシューティングする場合にも、割り当てられている View デスクトップをリセットし、チェックアウトしたデスクトップをロールバックできます。

■ Mac での Microsoft Windows デスクトップの使用 (P. 17)

Mac 版 View Client は以下の機能をサポートします。

■ View Client のトラブルシューティング (P. 18)

View Client に関するほとんどの問題は、デスクトップのリセットまたは VMware View Client の再インストールで解決することができます。

セットアップとインストール

Mac クライアント向けに View の展開をセットアップするには、特定の View 接続サーバ構成を使用し、View server と Mac クライアントのシステム要件に適合させ、VMware の Web サイトから Mac 用 View Client をダウンロードしてインストールします。

■ Mac クライアントのシステム要件 (P. 6)

Mac 版 View Client は、Mac OS X 10.6.8 以降のオペレーティング システムを使用する Intel ベースのすべてのモデルにインストールできます。

- サポートされている View デスクトップのオペレーティングシステム (P. 6)
管理者は、ゲスト オペレーティングシステムを使用して仮想マシンを作成し、そのゲスト オペレーティングシステムに View Agent をインストールします。エンドユーザーは、クライアント デバイスからこれらの仮想マシンにログインできます。
- View Client 向けの View 接続サーバの準備 (P. 7)
エンドユーザーが View デスクトップに接続できるようにするには、特定のタスクを管理者が実行する必要があります。
- Mac OS X への View Client のインストール (P. 7)
エンドユーザーは、View Client を開いて、Mac OS X の物理マシンから仮想デスクトップに接続します。View Client をディスク イメージ ファイルから Mac OS X クライアントシステムにインストールします。
- View Portal を使用して View Client をインストールする (P. 8)
View Client アプリケーションをインストールするときは、ブラウザを開いて View Portal Web ページを参照するのが便利な方法です。
- Dock への VMware View Client の追加 (P. 8)
他のアプリケーションと同じような操作で、View Client を Dock に追加できます。
- エンドユーザーの証明書確認の構成 (P. 8)
たとえば、完全検証を常に実行するように、管理者は証明書検証モードを構成することができます。

Mac クライアントのシステム要件

Mac 版 View Client は、Mac OS X 10.6.8 以降のオペレーティングシステムを使用する Intel ベースのすべてのモデルにインストールできます。

View Client をインストールする Mac とその周辺機器は、一定のシステム要件を満たしている必要があります。

モデル	Intel ベースの Mac
メモリ	最小で 2GB の RAM
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ■ View Client 1.6: Mac OS X Snow Leopard (10.6.8)、Mac OS X Lion (10.7)、および Mac OS X Mountain Lion (10.8) ■ View Client 1.4 および 1.5: Mac OS X Snow Leopard (10.6.8) および Mac OS X Lion (10.7)
View 接続サーバ、セキュリティサーバ、および View Agent	<p>4.6.1 以降のバージョン</p> <p>企業のファイアウォールの外部からクライアントシステムが接続する場合には、セキュリティサーバを使用することを推奨します。セキュリティサーバでは、クライアントシステムで VPN 接続が必要にはなりません。</p>
VMware View の表示プロトコル	PCoIP または RDP
RDP のソフトウェア要件	Microsoft Remote Desktop Connection Client for Mac バージョン 2.0 以降。このクライアントは Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

サポートされている View デスクトップのオペレーティングシステム

管理者は、ゲスト オペレーティングシステムを使用して仮想マシンを作成し、そのゲスト オペレーティングシステムに View Agent をインストールします。エンドユーザーは、クライアント デバイスからこれらの仮想マシンにログインできます。

サポートされているゲスト オペレーティングシステムの一覧については、VMware View 4.6.x または 5.x のインストールドキュメントの「View Agent でサポートされるオペレーティングシステム」を参照してください。

View Client 向けの View 接続サーバの準備

エンドユーザーが View デスクトップに接続できるようにするには、特定のタスクを管理者が実行する必要があります。

エンドユーザーが View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続して、View デスクトップにアクセスできるようにするには、プールの設定およびセキュリティの設定を構成する必要があります。

- セキュリティ サーバを使用している場合、VMware では、View 接続サーバ 4.6.1 以降および View セキュリティ サーバ 4.6.1 以降の使用を確認することを推奨しています。View 4.6 以降の『VMware View インストール ガイド』を参照してください。
- クライアント デバイスに安全なトンネル接続を使用する予定で、その安全な接続が View 接続サーバまたはセキュリティ サーバの DNS ホスト名を使用して構成される場合には、この DNS 名がクライアント デバイスによって解決できることを確認します。

安全なトンネルを有効または無効にするには、View 管理者で [View 接続サーバ設定の編集] ダイアログ ボックスに移動して、[デスクトップへの安全なトンネル接続を使用する] チェックボックスを使用します。

- 仮想デスクトップ プールが作成済みであること、および使用予定のユーザー アカウントにこの View デスクトップへのアクセス権が付与されていることを確認します。デスクトップ プールの作成については、『VMware View 管理ガイド』を参照してください。
- View Client で、RSA SecurID または RADIUS 認証などの 2 要素認証を使用するには、View 接続サーバでこの機能を有効にする必要があります。RADIUS 認証は、View 5.1 以降の View 接続サーバで使用できます。詳細については、『VMware View 管理者ガイド』で 2 要素認証に関するトピックを参照してください。

Mac OS X への View Client のインストール

エンドユーザーは、View Client を開いて、Mac OS X の物理マシンから仮想デスクトップに接続します。View Client をディスク イメージ ファイルから Mac OS X クライアントシステムにインストールします。

開始する前に

- クライアントシステムがサポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。[「Mac クライアントのシステム要件 \(P. 6\)」](#)を参照してください。
- クライアントシステムに管理者としてログインできることを確認します。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップに接続する予定の場合には、Mac クライアントシステムに Microsoft Remote Desktop Connection Client for Mac のバージョン 2.0 以降がインストールされていることを確認します。
- Mac 版 View Client のディスク イメージ ファイルがあるダウンロード ページの URL がわかっていることを確認します。

手順

- 1 Mac から、View Client のディスク イメージ ファイルがある Web ページを参照します。

ディスク イメージ ファイル名の形式は、`VMware-View-Client-<y.y.y>-<xxxxxx>.dmg` です。<xxxxxx> はビルド番号を、<y.y.y> はバージョン番号を表しています。

- 2 `.dmg` ファイルをダブルクリックして開き、[[同意する]] をクリックします。

ディスク イメージのコンテンツが、VMware View Client Finder ウィンドウに表示されます。

- 3 [Finder] ウィンドウで、[View Client] アイコンを [アプリケーション] フォルダ アイコンにドラッグします。

管理者ユーザーとしてログインしていない場合、管理者のユーザー名とパスワードの入力が求められます。

次に進む前に

View Client を開始して、正しい仮想デスクトップにログインできることを確認します。View グループ ポリシーの GPO を作成する方法の例については、[「初回の View デスクトップへのログイン \(P. 13\)」](#)。

View Portal を使用して View Client をインストールする

View Client アプリケーションをインストールするときは、ブラウザを開いて View Portal Web ページを参照するのが便利な方法です。

開始する前に

- View 接続サーバインスタンスの URL がわかっていることを確認します。
- クライアントシステムに管理者としてログインできることを確認します。
- クライアントシステムがサポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。[[Mac クライアントのシステム要件 \(P.6\)](#)] を参照してください。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップに接続する予定の場合には、Mac クライアントシステムに Microsoft Remote Desktop Connection Client for Mac のバージョン 2.0 以降がインストールされていることを確認します。

手順

- 1 管理者権限を持つユーザーとしてクライアントシステムにログインします。
- 2 ブラウザを開き、仮想デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバインスタンスの URL を入力します。
- 3 Web ページの指示に従います。

次に進む前に

View デスクトップに接続します。[[初回の View デスクトップへのログイン \(P.13\)](#)] を参照してください。

Dock への VMware View Client の追加

他のアプリケーションと同じような操作で、View Client を Dock に追加できます。

手順

- 1 [アプリケーション] フォルダで、[VMware View Client] をダブルクリックします。
- 2 コンテキストメニューが表示されるまで、[VMware View Client] アイコンをクリックしたままにします。
- 3 [オプション] - [ドックに保持] を選択します。

VMware View Client を終了するときに、アプリケーションのショートカットが Dock に残ります。

エンドユーザーの証明書確認の構成

たとえば、完全検証を常に実行するように、管理者は証明書検証モードを構成することができます。

証明書確認は、View 接続サーバと View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。管理者は検証モードを構成して、以下のいずれかの戦略を使用することができます：

- エンドユーザーは検証モードの選択を許可されています。この一覧の残りでは、3 種類の検証モードについて説明します。
- (検証なし) 証明書の確認は実行されません。
- (警告) 自己署名証明書がサーバによって提出された場合、エンドユーザーは警告を受けます。ユーザーはこの種類の接続を許可するか、しないかを選択できます。
- (フル セキュリティ) 完全な検証を実行し、完全検証に合格しない接続は拒否されます。

各検証確認の詳細については、[[View Client の証明書チェック モード \(P.14\)](#)] を参照してください。

エンドユーザーが変更できないように、検証モードを設定しておくこともできます。Mac クライアントの `/Library/Preferences/com.vmware.view.plist` ファイルの [セキュリティ モード] キーを以下の値のいずれかに設定します：

- 1 は、信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しないを実装します。
- 2 は、信頼されていないサーバに接続する前に警告するを実装します。
- 3 はサーバ ID 証明書を検証しないを実装します。

URI を使用して View Client を設定

uniform resource identifiers (URI) を使用して、View Client を起動するためにエンドユーザーがクリックするリンク付きの Web ページまたは電子メールを作成し、View 接続サーバに接続し、特定の設定オプションで固有のデスクトップを起動できます。

View Client 1.6 以降では、エンドユーザー用の Web または電子メールのリンクを作成することで、View デスクトップへのログイン プロセスを簡素化できます。部分的または以下のすべての情報を提供する URI を作成することでこれらのリンクを作成すれば、エンドユーザーは入力する必要がありません：

- View 接続サーバのアドレス
- View 接続サーバのポート番号
- Active Directory ユーザー名
- ドメイン名
- デスクトップ表示名
- ウィンドウ サイズ
- リセット、ログオフ、およびロールバックを含むデスクトップアクション
- 表示プロトコル

URI を作成するには、View Client 固有のパスおよびクエリ部分と共に `vmware-view` URI スキーマを使用します。

注意 View Client が既にエンドユーザーのクライアント コンピュータにインストールされている場合に限って、URI を使用して View Client を起動できます。

vmware-view URI を作成するための構文

構文には、`vmware-view` URI スキーム、デスクトップを指定するためのパス部分、そしてオプションでデスクトップのアクションまたは構成オプションを指定するためのクエリが含まれます。

VMware View URI の仕様

以下の構文を使用して View Client を起動するための URI を作成します：

```
vmware-view://[<authority-part>][/<path-part>][?<query-part>]
```

必要となる唯一の要素は URI スキーム `vmware-view` です。一部のクライアント OS のバージョンによっては、スキーマ名は大文字と小文字の区別があります。したがって、`vmware-view` を使用してください。

重要 すべての部分で、非 ASCII 文字は UTF-8 [STD63] に基づいて最初にエンコードされる必要があり、次に対応する UTF-8 シーケンスの各オクテットは、URI 文字として表されるパーセントでエンコードされる必要があります。

ASCII 文字のエンコードについての詳細は、http://www.w3schools.com/tags/ref_urlencode.asp の URL エンコーディング資料を参照してください。

<authority-part>

サーバアドレス、オプションでユーザー名、非デフォルトポート番号、またはその両方を指定します。サーバ名は、DNS 構文に一致する必要があります。

ユーザー名を指定するには、以下の構文を使用します:

user1@<server-address>

ドメインが含まれる UPN アドレスを指定できません。ドメインを指定するには、URI で **domainName** クエリ部分を使用できます。

ポート番号を指定するには、以下の構文を使用します:

<server-address>:<port-number>

<path-part>

デスクトップを指定します。デスクトップ表示名を使用します。表示名にスペースが含まれている場合、**%20** エンコーディング機能を使用してスペースを表します。

<query-part>

使用するための設定オプション、または実行するデスクトップアクションを指定します。クエリは大文字と小文字の区別がありません。複数のクエリを使用するには、クエリの間にアンパサンド (&) を使用します。クエリが違いに競合する場合、リストの最後のクエリが使用されます。次の構文を使用します:

<query1>=<value1> [&<query2>=<value2>...]

サポートされるクエリ

このトピックは、View Client のこのタイプでサポートされるクエリをリストします。デスクトップクライアントやモバイルクライアントなどの複数のクライアントタイプ用に URI を作成する場合は、クライアントシステムの各タイプの『VMware View Client の使用』を参照してください。

アクション

表 1-1. アクション クエリで使用できる値

値	説明
参照	指定したサーバにホストされている使用可能なデスクトップのリストを表示します。このアクションを使用している場合、デスクトップを指定する必要はありません。 参照 アクションを使用し、デスクトップを指定する場合、デスクトップは使用できるデスクトップのリストで強調表示されます。
スタート セッション	指定したデスクトップを起動します。アクションクエリが提供されず、デスクトップ名が提供されなければ、 スタート セッション がデフォルトアクションとなります。
リセット	指定したデスクトップをシャットダウンして再起動します。保存されていないデータは失われます。 View デスクトップのリセットは、物理 PC のリセットボタンを押すのと同じです。
ログオフ	View デスクトップのゲスト OS からユーザーがログオフします。
ロールバック	Windows PC またはノートパソコンのローカル モードを使用するためにチェックアウト中に、指定したデスクトップに行った変更を取り消します。

desktopLayout

View デスクトップを表示するウィンドウのサイズを設定します。このクエリを使用するには、**action** クエリを **start-session** に設定する必要があります。さもないと、**action** クエリを設定しません。

表 1-2. desktopLayout クエリの有効値

値	説明
fullscreen	1 台のモニターでフル画面。これはデフォルトです。
windowLarge	大きなウィンドウ。

表 1-2. desktopLayout クエリの有効値 (続き)

値	説明
windowSmall	小さなウィンドウ。
<W>x<H>	カスタム解像度で、幅と高さをピクセルで指定します。構文の例は、 desktopLayout=1280x800 です。

desktopProtocol	有効な値は、 RDP および PCoIP です。たとえば、PCoIP を指定するには、 desktopProtocol=PCoIP 構文を使用します。
domainName	View デスクトップに接続しているユーザーに関連づけられるドメイン。

vmware-view URI の例

vmware-view URI スキームでハイパーテキスト リンクまたはボタンを作成し、電子メールや Web ページにこれらのリンクを含めることができます。エンド ユーザーがこれらのリンク先をクリックして、たとえば、指定する起動オプションで特定の View デスクトップを起動できます。

URI 構文の例

各 URI 例は、URI リンクをクリック後にエンド ユーザーに表示される説明に続きます。

1 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザーにユーザー名、ドメイン名、およびパスワード入力を求めます。ログインが成功すれば、クライアントは [プライマリ デスクトップ] と表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

注意 デフォルトの表示プロトコルおよびウィンドウ サイズが使用されます。デフォルトの表示プロトコルは PCoIP です。デフォルトのウィンドウ サイズはフル画面です。

2 vmware-view://view.mycompany.com:7555/Primary%20Desktop

この URI は、View View 接続サーバに 7555 の非デフォルト ポートを使用することを除いて以前の例と同じ効果を持ちます。(デフォルト ポートは 443 です。)デスクトップ ID が提供されているので、デスクトップは **start-session** アクションが URI に含まれていなくとも起動されます。

3 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?desktopProtocol=PcoIP

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスが [fred] という名前を設定されます。ユーザーはドメイン名とパスワードを入力する必要があります。ログインが成功すれば、クライアントは [ファイナンス デスクトップ] と表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。この接続では PCoIP 表示プロトコルが使用されます。

4 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?domainName=mycompany

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスが [fred] という名前を設定され、[ドメイン] テキスト ボックスは [mycompany] で設定されます。ユーザーはパスワードだけ入力する必要があります。ログインが成功すれば、クライアントは [ファイナンス デスクトップ] と表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

5 vmware-view://view.mycompany.com/

View Client が起動され、ユーザーは **view.mycompany.com** サーバに接続するためのログイン入力が必要と求められます。

6 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=reset

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザーにユーザー名、ドメイン名、およびパスワード入力を求めます。ログインが成功すれば、View Client はダイアログ ボックスを表示して、プライマリ デスクトップのリセット操作の確認をユーザーに求めます。リセットが行われると、View Client のタイプに基づいて、ユーザーにリセットが成功したかどうかを示すメッセージが表示されます。

注意 このアクションは、View 管理者がエンド ユーザーにこの機能を有効にしている場合に限って使用されます。

7 vmware-view://

View Client が起動され、View 接続サーバインスタンスのアドレスを入力するためのページに入ります。

HTML コードの例

URI を使用して、ハイパーテキスト リンクおよびボタンを電子メールまたは Web ページに組み込むことができます。以下の例は、最初の URI の例から URI を使用して [Test Link] というハイパー リンクおよび [TestButton] というボタンをコーディングする方法です。

```
<html>
<body>

<a href="vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session">Text Link</a><br>

<form><input type="button" value="TestButton" onClick="window.location.href='vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session'"></form>
<br>

</body>
</html>
```

サーバ接続とデスクトップの管理

View Client を使用して View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続し、View デスクトップにログインするか View デスクトップからログオフします。トラブルシューティングする場合にも、割り当てられている View デスクトップをリセットし、チェックアウトしたデスクトップをロールバックできます。

管理者による View デスクトップのポリシーの構成方法によっては、エンド ユーザーはデスクトップで多くの操作を実行できるようになります。

- [初回の View デスクトップへのログイン \(P. 13\)](#)
エンド ユーザーが仮想デスクトップにアクセスする前に、クライアントシステムから仮想デスクトップにログインできることをテストします。
- [View Client の証明書チェック モード \(P. 14\)](#)
管理者は、またときにはエンド ユーザーは、サーバの証明書チェックが失敗した場合にクライアント接続を拒否するかどうかを設定できます。
- [デスクトップの切り替え \(P. 15\)](#)
デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。
- [デスクトップからのログオフまたは切断 \(P. 15\)](#)
ログオフせずに View デスクトップから切断すると、アプリケーションは開いたままになります。
- [ホーム画面からの View サーバショートカットの削除 \(P. 16\)](#)
View サーバに接続すると、サーバのショートカットが View Client のホーム画面に保存されます。
- [デスクトップのロールバック \(P. 16\)](#)
ロールバックは、Windows PC またはノートパソコン上のローカル モードでの使用のためにチェックアウトした仮想デスクトップに行った変更を廃棄することになります。

初回の View デスクトップへのログイン

エンドユーザーが仮想デスクトップにアクセスする前に、クライアントシステムから仮想デスクトップにログインできることをテストします。

開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。
- ログイン用のドメイン名を取得します。
- 管理タスクの実行については以下で説明しています。 [\[View Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 7\)\]](#)。
- 社内ネットワークの外部から接続し、仮想デスクトップへのアクセスにセキュリティ サーバを使用していない場合、使用しているクライアント デバイスが VPN 接続を使用していることを確認し、この接続をオンにします。

重要 VMware では、VPN よりもセキュリティ サーバの使用を推奨しています。

- 仮想デスクトップへのアクセスを提供する サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を用意していることを確認してください。ポート番号が 443 ではない場合は、ポート番号も必要です。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップの接続を計画している場合は、AllowDirectRDP View Agent グループ ポリシーが有効であることを確認してください。
- 管理者が許可している場合、View server から提示される SSL 証明書について、証明書確認モードを構成できます。 [\[View Client の証明書チェック モード \(P. 14\)\]](#) を参照してください。
- エンドユーザーが Microsoft RDP 表示プロトコルを使用することを許可される場合、クライアントシステムに Mac 版の Microsoft Remote Desktop Connection Client バージョン 2.0 以降がインストールされていることを確認してください。このクライアントは Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

手順

- 1 [アプリケーション] フォルダで、[VMware View Client] をダブルクリックします。
- 2 View Client ホーム画面上で、[サーバの追加] アイコンをクリックします。
- 3 必要に応じてサーバ名とポート番号を入力し、[続行] をクリックします。
view.company.com:1443 は、デフォルト以外のポートを使用した一例です。
- 4 RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [続行] をクリックします。
- 5 ユーザー名とパスワードを入力し、ドメインを選択して、[続行] をクリックします。
ログイン ダイアログ ボックスが表示される前に、確認する必要があることを知らせるメッセージが表示される場合があります。
- 6 デスクトップセキュリティ インジケータが赤に変わり、警告メッセージが表示されたら、プロンプトに応答します。
通常、この警告は View 接続サーバが証明書サムプリントをクライアントに送信しなかったことを示します。サムプリントは証明書公開鍵のハッシュであり、公開鍵を省略したものとして使用されます。View 接続サーバ 4.6.1、5.0.1 以降のバージョンは、サムプリント情報を送信しますが、以前のバージョンではこれを実行しません。
- 7 (オプション) プロトコルを選択します。
デフォルトは、[PCoIP] です。代わりに Microsoft RDP を使用する場合、デスクトップ名の下にある [PCoIP] をクリックして切り替え、[RDP] を選択します。

注意 [RDP] を使用するには、クライアントシステムは、Microsoft Remote Desktop Connection Client for Mac バージョン 2.0 以降を使用する必要があります。

- 8 View デスクトップのショートカットをダブルクリックして、接続します。

接続した後、クライアントウィンドウが表示されます。View Client がデスクトップに接続できない場合は、次の手順を実行します。

- View 接続サーバが SSL を使用しないように構成するかどうかを決定します。View Client は、SSL 接続を必要とします。View 管理者のグローバル設定で、[クライアント接続に SSL を使用する] チェックボックスが選択されていないかどうかを確認します。このチェックボックスが選択されていない場合、チェックボックスを選択して SSL を使用する必要があります。または、HTTPS が有効なロード バランサや View 接続サーバへの HTTP 接続を作成するように構成されている他の中間デバイスにクライアントが接続できるように環境をセットアップする必要があります。
- View 接続サーバ用のセキュリティ証明書が正常に動作していることを確認します。正常に動作していない場合は、View 管理者で、デスクトップの View Agent が到達不能になる場合もあります。
- View 接続サーバ インスタンスで設定されているタグがこのユーザーからの接続を許可していることを確認します。『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。
- ユーザーがこのデスクトップにアクセスする資格を付与されていることを確認します。『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップに接続している場合、クライアント コンピュータでリモート デスクトップ接続が許可されていることを確認します。

View Client の証明書チェック モード

管理者は、またときにはエンド ユーザーは、サーバの証明書チェックが失敗した場合にクライアント接続を拒否するかどうかを設定できます。

証明書確認は、View 接続サーバと View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。証明書検査では、次のような検査が行われます。

- 証明書の目的は、送信側の ID 検証やサーバ通信の暗号化以外にあるか。つまり、証明書のタイプは正しいか。
- 証明書は期限切れになっているか、また有効なのは未来のみか。つまり、証明書はコンピュータの時刻に応じて有効になっているか。
- 証明書上の共通名は、それを送信するサーバのホスト名と一致しているか。ロード バランサが View Client をあるサーバにリダイレクトする際に、証明書が View Client に入力したホスト名と一致しない場合、不一致が発生する可能性があります。クライアントにホスト名ではなく IP アドレスを入力した場合でも、不一致の原因となる可能性があります。
- 不明なまたは信頼されていない証明機関 (CA) によって署名された証明書か。自己署名された証明書は、信頼されていない CA の証明書タイプの 1 つです。

チェックをパスするには、証明書のトラスト チェーンが、デバイスのローカル証明書ストアでルートになっている必要があります。

注意 自己署名付ルート証明書を配布して Mac OS X クライアントシステムにインストールする手順については、Apple の Web サイトから入手できる、Mac OS X Server の『Advanced Server Administration』ドキュメントを参照してください。

サーバ証明書を提示するほかにも、バージョン 4.6.1 および 5.0.1 以降の View 接続サーバは View Client に証明書のサムプリントも送信します。サムプリントは証明書公開鍵のハッシュであり、公開鍵を省略したものと使用されます。View server がサムプリントを送信しない場合、接続が信頼されていないことを知らせる警告が表示されます。

管理者が許可している場合、証明書確認モードを設定することができます。[Finder] メニュー バーから [VMware View Client] - [環境設定] を選択します。選択肢は次の 3 つです。

- [信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しない]。証明書の確認に失敗した場合、クライアントはサーバに接続できなくなります。失敗したチェックは、エラー メッセージに一覧表示されます。

- [信頼されていないサーバに接続する前に警告する]。サーバが自己署名証明書を使用していることが原因で、証明書の確認に失敗した場合、[続行] をクリックして警告を無視することができます。自己署名証明書の場合、証明書名は View Client に入力した View 接続サーバ名と一致する必要はありません。
- [サーバ ID 証明書を検証しない]。この設定は、証明書チェックは View によって一切実行されないことを意味します。

証明書確認モードが [警告] に設定されている場合でも、自己署名証明書を使用する View 接続サーバ インスタンスに接続することができます。

後で管理者が信頼される証明機関からのセキュリティ証明書をインストールし、接続時のすべての証明書チェックにパスするようになると、この信頼された接続はその特定のサーバに対して記録されます。その後、このサーバが自己署名証明書を再び提示すると、接続は失敗します。特定のサーバが完全に検証可能な証明書を提示した後は、必ずその処理が行われます。

デスクトップの切り替え

デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。

手順

- ◆ 同じサーバ上、または異なるサーバから View デスクトップを選択します。

オプション	操作
同じサーバの異なる View デスクトップを選択する	ツールバーで [切断] ボタンをクリックするか、[デスクトップ] - [切断] を Finder メニュー バーで選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	ツールバーの右側の [サーバから切断] ボタンをクリックします。

デスクトップからのログオフまたは切断

ログオフせずに View デスクトップから切断すると、アプリケーションは開いたままになります。

View デスクトップに接続していないときに、最初に接続しなくてもログオフできます。この機能を使用すると、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [ログオフ] をクリックするのと同じ結果になります。

注意 Windows のキーの組み合わせ <Ctrl> + <Alt> + は、View デスクトップではサポートしていません。<Ctrl> + <Alt> + の代わりに、メニューバーから [デスクトップ] - [Ctrl+Alt+Del の送信] を選択することもできます。

または、Apple のキーボードで <Fn> + <Control> + <Option> + <Delete> を押します。

手順

- ログオフせずに切断する。

オプション	操作
View Client も終了する	ウィンドウの隅にある [閉じる] ボタンをクリックするか、[Finder] メニューバーから [ファイル] - [閉じる] を選択します。
同じサーバの異なる View デスクトップを選択する	ツールバーで [切断] ボタンをクリックするか、[デスクトップ] - [切断] を Finder メニューバーで選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	ツールバーの右側の [サーバから切断] ボタンをクリックします。

注意 View 管理者は、切断された時点で自動的にログオフするようにデスクトップを設定できます。その場合、デスクトップで開いているプログラムは停止します。

- ログオフして切断する。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムで	Windows の [スタート] メニューを使用してログオフします。
メニュー バーから	[Finder] メニュー バーから [デスクトップ] - [ログオフ] を選択します。 この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- View デスクトップに接続していない場合にログオフする。

この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

オプション	操作
サーバショートカットがあるホーム画面から	a サーバショートカットをダブルクリックし、認証情報を入力します。 認証情報には、RSA SecurID 認証情報やデスクトップにログインするための認証情報が含まれる場合があります。 b デスクトップを選択し、[Finder] メニュー バーから [デスクトップ] - [ログオフ] を選択します。
デスクトップショートカットがあるホーム画面から	デスクトップを選択し、[デスクトップ] - [ログオフ] を Finder メニュー バーで選択します。

ホーム画面からの View サーバショートカットの削除

View サーバに接続すると、サーバのショートカットが View Client のホーム画面に保存されます。

View 接続サーバのショートカットを選択して、Delete キーを押すか、ホーム画面でショートカットをコントロールクリックまたは右クリックして、[削除] を選択して、ショートカットを削除できます。

サーバに接続した後に表示される View デスクトップのショートカットは削除できません。

デスクトップのロールバック

ロールバックは、Windows PC またはノートパソコン上のローカル モードでの使用のためにチェックアウトした仮想デスクトップに行った変更を廃棄することになります。

View 管理者がこの機能を利用でき、デスクトップがチェックアウトされている場合のみ、View デスクトップをロールバックできます。



注意 ローカル モードのデスクトップが変更され、ロールバック前に変更が View サーバにレプリケートされない場合は、変更は失われます。

開始する前に

- Active Directory ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコードなどのログインに必要な認証情報を取得します。
- データまたはファイルを保存するために、デスクトップをサーバにバックアップします。

View 管理者を使ってデータをサーバにレプリケートするか、ポリシーが許可する設定の場合、デスクトップが現在チェックアウトされている Windows クライアントのローカル モードで View Client を使用できます。

手順

- 1 View Client のホーム画面に View 接続サーバのショートカットが表示されている場合、デスクトップにアクセスするサーバのショートカットをダブルクリックして、認証情報を入力します。
 - a RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [続行] をクリックします。
 - b ログイン ダイアログ ボックスでユーザー名とパスワードを入力します。

- View デスクトップのショートカットを表示している View Client のホーム画面で、デスクトップを選択して、[Finder] のメニューバーから [デスクトップ] - [ロールバック] を選択します。

View デスクトップがロールバックされた後、Mac クライアントからログインできます。

Mac での Microsoft Windows デスクトップの使用

Mac 版 View Client は以下の機能をサポートします。

機能サポート一覧

Mac 版 View Client では、Windows 版 View Client のデスクトップやノート PC など、その他のクライアントで使用可能な機能の一部がサポートされています。

表 1-3. Mac OS X クライアントの Windows デスクトップでサポートされる機能

機能	Windows 7 の View デスクトップ	Windows Vista の View デスクトップ	Windows XP の View デスクトップ
RSA SecurID または RADIUS	○	○	○
シングル サインオン	○	○	○
RDP 表示プロトコル	○	○	○
PCoIP 表示プロトコル	○	○	○
USB アクセス			
Wyse MMR			
仮想印刷			
ロケーション ベースの印刷	○	○	○
スマート カード			
複数のモニタ			
ローカル モード			

上記の機能の詳細および制限事項については、『VMware View アーキテクチャ プランニング ガイド』を参照してください。

国際化

View Client のユーザー インターフェイスとドキュメントは、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体中国語、および韓国語で利用可能です。

テキストとイメージのコピー アンド ペースト

管理者がこの機能を有効にしていると、リモートの View デスクトップとクライアントシステムの間、または 2 つの View デスクトップの間で書式付きテキストやイメージをコピー アンド ペーストできます。制限事項がいくつか存在します。

PCoIP 表示プロトコルを使用し、View 5.x 以降の View デスクトップを使用している場合、View の管理者は、クライアントシステムから View デスクトップへ、または View デスクトップからクライアントシステムへのコピー アンド ペースト操作のみを許可するように設定できます。また、双方向のコピー アンド ペースト操作を許可したり、これらの操作を禁止したりすることもできます。

管理者は、View デスクトップの View Agent に関連するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) を使用して、コピー アンド ペーストの機能を構成できます。詳細については、『VMware View の管理』ドキュメントのポリシーの構成の章にある View PCoIP の一般的なセッション変数に関するトピックを参照してください。

サポートされているファイル形式は、テキスト、画像、RTF (リッチ テキスト フォーマット) です。コピー アンド ペーストの操作では、クリップボードに 1MB のデータを格納できます。書式付きテキストをコピーする場合、そのデータの一部はテキストで、一部は書式設定情報になります。たとえば、800KB のドキュメントをコピーするときには 1MB 以上のデータが使用される可能性があります。これは、200KB 以上の RTF データがクリップボードに格納されることが考えられるためです。

大量の書式付きテキストまたはテキストとイメージをコピーする場合、そのテキストとイメージをペーストしようとすると、プレーン テキストの一部または全部は表示されますが、書式設定やイメージは表示されません。なぜなら、これらの 3 種類のデータは別々に保存されることがあるからです。たとえばイメージは、コピー元のドキュメントの種類に応じて、イメージまたは RTF データとして保存されます。

テキストおよび RTF データが 1MB 未満である場合には、書式付きテキストはペーストされます。RTF データは切り捨てできないのが一般的であるため、テキストと書式設定で 1MB 以上を使用する場合には、RTF データは破棄され、プレーン テキストがペーストされます。

1 回の操作で選択した書式付きテキストとイメージのすべてをペーストできない場合には、1 度に少しずつコピー アンド ペーストする必要があります。

View デスクトップとクライアント コンピュータのファイル システムの間では、ファイルのコピー アンド ペーストはできません。

PCoIP クライアントサイド イメージ キャッシュ

PCoIP クライアントサイド イメージ キャッシングでは、再送信を回避するためにイメージコンテンツをクライアントに保存します。この機能は帯域幅の使用を減らします。

重要 この機能は、View Agent および View 接続サーバが View 5.0 以降のバージョンである場合のみ使用可能です。

PCoIP イメージ キャッシュは、一時的なものと同様、空間的冗長性をキャプチャします。たとえば、PDF ドキュメントをスクロールダウンすると、ウィンドウの下部から新しいコンテンツが表示され、一番古いコンテンツはウィンドウのトップから表示されなくなります。他のコンテンツはすべて変わらず、上に移動します。PCoIP イメージ キャッシュは、この空間的で時間的な冗長性を検出できます。

スクロールの間、クライアント デバイスに送られたディスプレイ情報は、主として、かなりの大きさの帯域幅を保存するイメージキャッシュを使用しているキャッシュインデックスのシーケンスです。このように効率的なスクロールは、LAN 上、WAN を介する場合のいずれもメリットがあります。

- LAN 上では、帯域幅は比較的制約がありませんが、クライアントサイド イメージ キャッシングを使用しており、かなりの大きさの帯域幅を節約できます。
- WAN を介して、利用可能な帯域幅の制限内に抑えるには、クライアントサイドのキャッシングなしではスクロールのパフォーマンスが低下します。WAN 介して、クライアントサイドのキャッシングにより帯域幅が節約され、スムーズで高感度のスクロール体験が可能になります。

クライアントサイド キャッシングでは、クライアントは以前に転送した表示部分を保存します。キャッシュ サイズは 250 MB です。

View Client のトラブルシューティング

View Client に関するほとんどの問題は、デスクトップのリセットまたは VMware View Client の再インストールで解決することができます。

デスクトップのリセット

リセット操作を実行すると、デスクトップがシャットダウンおよび再起動されます。保存されていないデータは失われます。

デスクトップオペレーティングシステムが応答しなくなった場合、デスクトップのリセットが必要となる場合があります。

View デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するためにその PC のリセット ボタンを押す操作に相当します。View デスクトップで開いているすべてのファイルが、保存されずに閉じられることとなります。

デスクトップをリセットできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

手順

- ◆ [リセット] コマンドを使用します。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムで	[Finder] メニュー バーから [デスクトップ] - [リセット] を選択します。
サーバショートカットがあるホーム画面から	<p>a サーバショートカットをダブルクリックし、認証情報を入力します。</p> <p>認証情報には、RSA SecurID 認証情報やデスクトップにログインするための認証情報が含まれる場合があります。</p> <p>b デスクトップを選択し、[Finder] メニュー バーから [デスクトップ] - [リセット] を選択します。</p>
デスクトップショートカットがあるホーム画面から	デスクトップを選択し、[Finder] メニュー バーから [デスクトップ] - [リセット] を選択します。

View デスクトップのオペレーティングシステムが再起動されます。View Client がデスクトップから切断されます。

次に進む前に

システムが再起動するのを待ってから、View デスクトップへの接続を試行します。

View Client のアンインストール

View Client の問題を VMware View Client アプリケーションをアンインストールし、再インストールして解決できることがあります。

他のアプリケーションをアンインストールするのと同じ方法で、View Client をアンインストールします。

[VMware View Client] アプリケーションを [アプリケーション] フォルダから [ごみ箱] にドラッグし、ごみ箱を空にします。

アンインストールが完了すると、アプリケーションを再インストールできます。

[\[Mac OS X への View Client のインストール \(P. 7\)\]](#) を参照してください。

インデックス

記号

View 接続サーバのショートカット 16
View デスクトップ、ロールバック 16
View デスクトップのロールバック 16
サーバ ショートカット 16
デスクトップ
 ロールバック 16
 リセット 18

C

Ctrl+Alt+Delete 15
Ctrl+Alt+Del メニューコマンドノソウシン 15

D

Dock 8

M

Mac OS X、View Client のインストール 6, 7

O

OS X、View Client のインストール 7

P

PCoIP クライアント イメージ キャッシュ 18

S

SSL 証明書、検証する 8

U

UPN、View Client 13
URI (uniform resource identifiers) 9
URI の例 11

V

View Agent、インストール要件 6
View Client のアンインストール 19
View Client 用の URI 構文 9
View Client
 Mac OS X のシステム要件 6
 Mac OS X へのインストール 7
 Mac クライアントのセットアップ 5
 View Portal を使用したインストール 8
 起動 13
 デスクトップから切断 15
 トラブルシューティング 18
View Portal 8

View 接続サーバ、ショートカット 16

View デスクトップから切断 15

View デスクトップへログイン 13

W

Windows デスクトップ 17

い

イメージ、コピー 17

イメージ キャッシュ、クライアント 18

お

オペレーティング システム、View Agent でサポート
 されている 6

き

機能サポート マトリックス、Mac OS X 向け 17

キャッシング、クライアントサイド イメージ 18

く

クライアントイメージ キャッシュ 18

クライアント デバイスの前提条件 7

こ

国際化 17

さ

サーバ証明書検証 8

サーバ接続 12

し

システム要件、Mac OS X 向け 6

証明書、問題の無視 8, 14

証明書確認の検証モード 8

せ

セキュリティ サーバ 7

て

テキスト、コピー 17

テキストとイメージのコピー 17

テキストとイメージのペースト 17

デスクトップ

 切り替え 15

 ログオフ 15

デスクトップの切り替え 15

デスクトップのリセット 18

と

トラブルシューティング 18

は

ハードウェア要件、Mac 6

ろ

ログオフ 15